

25(27) 江戸の都市生活（都市文明史⑫）

2005/06/18

1 江戸の住民——100万人～160万人

- 1) 武士 ①将軍、旗本、御家人、組屋敷、大奥、家族、使用人
②大名（上、中、下屋敷）、江戸家老、家臣、奥、家族、使用人 出替り
- 2) 町人 家持、家守、地借、店借、店子、掛かり人、出居衆、年季奉公 棒手振り
- 3) 寺社 僧侶、神主、門前町 按摩 虚無僧 楽人 陰陽師 連歌師
- 4) えた、非人 無宿もの
- 5) 役者、芸人、師匠
- 6) 浪人（苗字帯刀、町人扱い）初期50年間 217家廃絶滅封 875万石 40～50万人

2 自治と支配

- 1) 評定所（三奉行、大目付け、目付け）

- 2) 町奉行⇒町年寄⇒名主⇒地主・家持⇒五人組⇒家守（大家）⇒店子
- 3) 税免除 町入用（地主負担）7分積み金 木戸・自身番 町火消し
- 4) 寺社奉行 本山・本寺を通じての支配 暮、将棋所
- 5) 郡代、代官 村役人

3 江戸の範囲——御町中、御府内

- 1) 朱引き・黒引き 町奉行管轄
- 2) ①寄付集め ②所払い ③塗高札
- 3) 外出許可 旗本、御家人
- 4) スプロールの容認 儲け優先 荻生徂徠の批判

4 暮らし——エコシステム

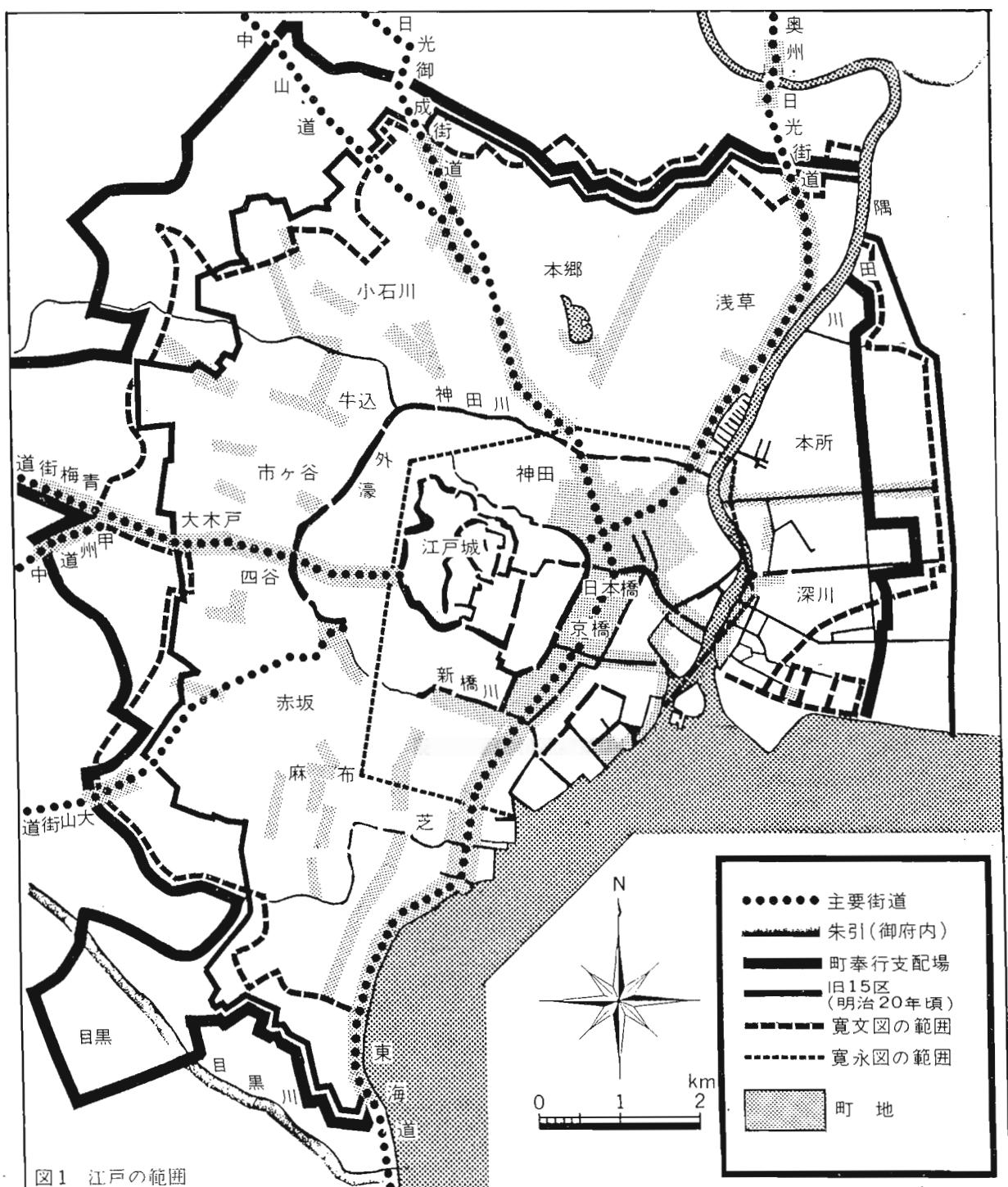
- 1) 水道①神田上水——平川 大久保主水 水道橋 木管 66.3k 井戸 3663
井の頭、善福寺川、妙正寺川

- ②溜池上水 赤坂上水
③玉川上水(1653)玉川庄右衛門・清右衛門 羽村から 43k 高低差 92m 7ヶ月
4上水(青山、三田、仙川、本所)の使用禁止(1722)

- 2) 再生システム 古着屋、古道具屋(3672人)、ボロ市
修理屋 古鉄買い、浅草紙・ろうそく・灰買い
- 3) ごみ 埋め立て（永代島）富岡八幡
- 4) し尿 便所の位置 農村還元、肥料、野菜
- 5) 燃料 木炭、薪、たどん
- 6) 市場と流通 佃（漁法、隠密、防衛）小田原町

5 交通・運輸

- 1) 水運 掘割り、舟入り、倉庫 遊びの船（屋形船、猪牙舟）
- 2) 駕籠、天秤棒、大八車



積的にも小さく、機能的にはごく限られた地域の中心であるか、または、江戸全体の中心部と周辺部を結びつける補助的な役割を果たしていたと考えられる。

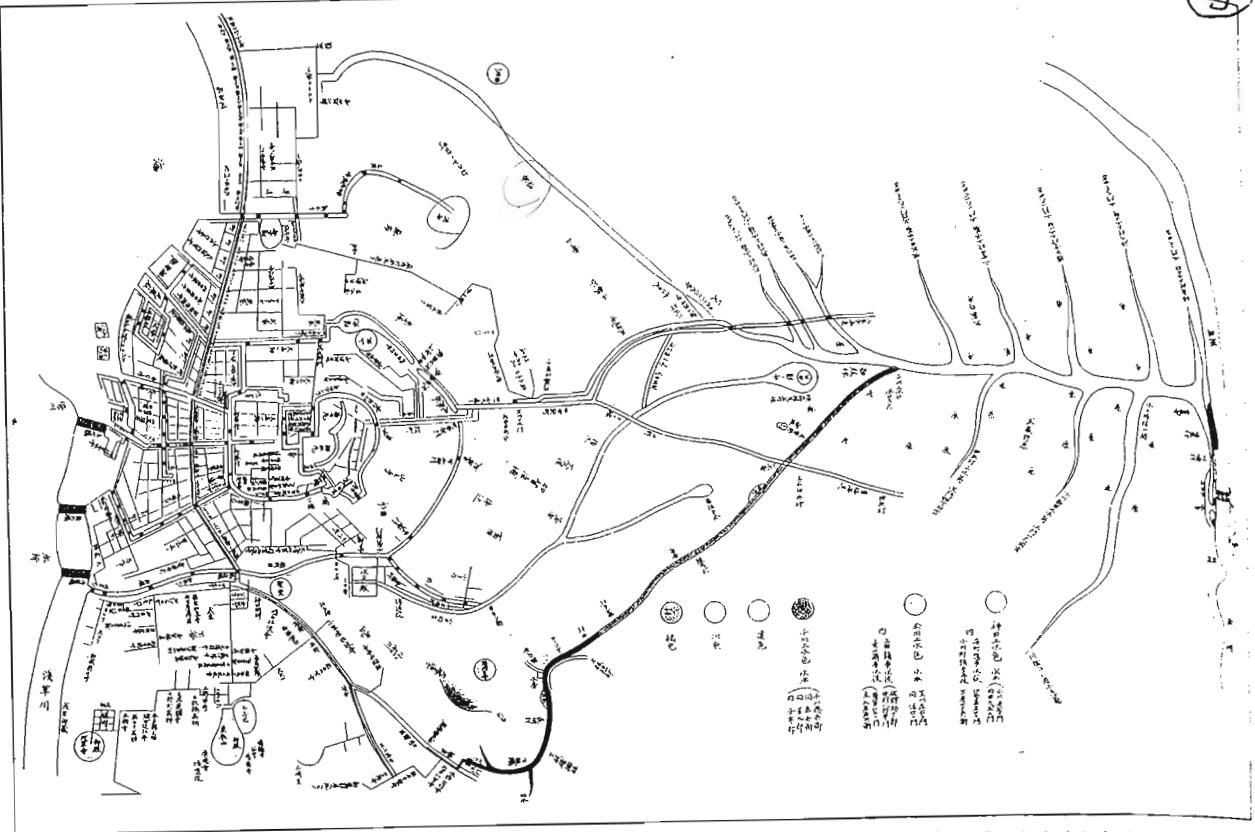
つまり17世紀後半以降の江戸は、その成立過程を反映した中心部と周辺部というかなり明確な二重構造をもつ、いわば複合都市であり、そのような複合都市として、内部で役割分担が行なわれたからこそ、あのような巨大都市の機能が維持できたのだと考えられる。

〈文献〉

師橋辰夫「江戸の範囲」(『東京の社会教育』30巻3号、東京都教育委員会、1984年)。

玉井哲雄『江戸——失われた都市空間を読む』(平凡社, 1986年).

東京都教育委員会『江戸復原図』(1989年).

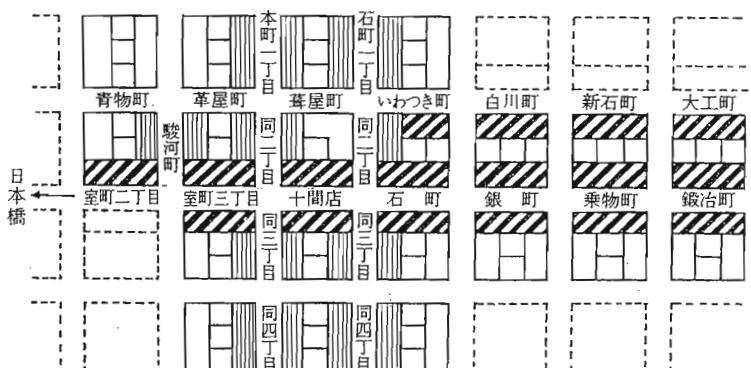


正徳頃の江戸の水道系路図（亀有上水は描かれてない）（『東京市史稿』上水篇より）

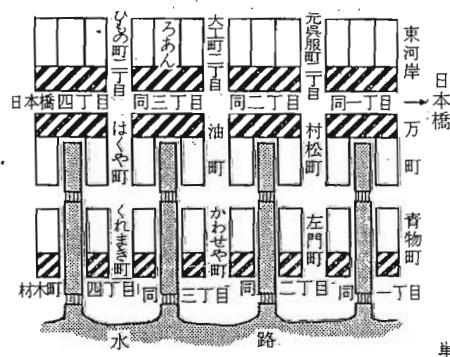
日本橋付近の町割り

『千代田区史』より

日本橋より北側の町（日本橋・神田）



日本橋より南側の町（京橋）



町割の標準

